

一貫構造計算プログラムをご利用のお客様 各位

2019年11月26日
改訂：2020年1月24日
改訂：2020年8月5日
岡部株式会社
旭化成建材株式会社

ベースパック新評定移行期における、一貫構造計算プログラムと ベースパック耐力検討ソフト(BTM9)のベースパック耐力出力値の差異について

ベースパックは、2019年6月より新評定（BCJ 評定-ST0093-17、ST0054-10）の運用を開始いたしました。現在、順次一貫構造計算プログラムへの新評定組込み対応を進めていますが、最新のベースパック耐力検討ソフト BTM(バージョン:9.0.0.7以降 (LastUpdate 2019/10/01))において、以下のケースで、新評定に対応していない一貫構造計算プログラムの耐力出力値と差異が生じる場合があります。

【差異が生じるケースと内容】

図書指定の柱型コンクリートの設計基準強度が、ベースパックカタログ記載のコンクリート設計基準強度と異なる場合に、柱脚曲げ耐力及びアンカーボルトによる柱脚せん断耐力に差異が生じます。ただし、柱に生じる軸力により、差異発生の有無やその程度は異なります。

なお、上記の差異は、以下いずれかの方法により解消することが可能です。

- ・ 図書指定の柱型コンクリートの設計基準強度をベースパックカタログ記載のコンクリート設計基準強度とする。
- ・ BTM バージョン 9.0.0.6 を使用して柱脚耐力の確認を行う。(BTM バージョン 9.0.0.6 上に表示される耐力、耐力曲線等はベースパックカタログ記載のコンクリート設計基準強度で算出されたものです)

【差異が生じない一貫構造計算プログラム（新評定対応済みの一貫構造計算プログラム）】

株式会社構造システム BUS-6

株式会社構造ソフト BUILD.一貫 V

ユニオンシステム株式会社 Super Build / SS7

株式会社アークデータ研究所 ASCAL

各一貫構造計算プログラムには、上記差異の解消、及び新評定対応を鋭意進めてまいります。が、今しばらくの間、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

以上